

草の根事業
育成助成

■
報告

2026年5月

発達障害児への 接し方・教え方を 学校関係者と一緒に 探る研修会

特定非営利活動法人

Education in Ourselves

教育を軸に子どもの成長を考えるフォーラム

【全体事業】

(1) セミナー/研修会事業の企画・準備……

セミナー「教育を軸に子どもの成長を考えるフォーラム」を2017年からスタート。現在、40回開催（第40回は昨年12月に沖縄県で開催し約130名が参加。今月16日には第41回を予定）。

参加者は毎回数十名、首都圏各地の保護者、教育・保育・福祉関係者など。

その企画・告知・準備・運営。＊助成対象は第39回（2025年7月渋谷区で開催）

(2) 出版事業の編集・販売……

(a) セミナーで報告された成長記録をまとめた記録集、(b) 発達障害児の指導ノウハウを活かしてすべての子にわかりやすく教えられる学習ドリル（全4巻）の編集と販売（取次との折衝も）。

(3) 研究活動……

特別支援教育に携わる教師たちが参加して話し合う「〈教わる力〉を育てる指導研究会」の活動支援。目的は、実績ある効果的な指導の考え方・方法を公教育の中へ応用すること。

【年間予算と申請事業の経費・助成金額】

[年間予算]

2025年度（活動計算書より）	
収入	3,491,653円
支出	4,119,267円
2026年度（活動予算書より）	
収入	2,405,000円
支出	2,329,172円

[申請事業経費・助成金額]

草の根事業育成助成

助成事業経費	306,368円
助成金額	102,000円

参考（2024年度）

助成事業経費	303,423円
助成金額	178,000円

【当NPO法人の課題】

(1) 予算

活動を保証する予算面の課題が常にあります。活動ならびに趣旨に賛同してもらえる団体・個人、助成財団へのアピールが不可欠だと思いますが、同時に事業収益をアップできるような取り組み・体制づくりが重要だと感じています。

(2) 人的ネットワーク

人的ネットワークの拡大は、事業に広がりをもたらし、新たな事業の可能性を広げます。今後、全国各地のより多くの方々に参加してもらえるよう、対面とオンラインを組み合わせたハイブリッド型のセミナーも開催予定です（2026年初め）。

(3) 地域や職種・業種間の交流

全国共通のテーマを取り上げ、埼玉・さいたま市、東京・渋谷区の2つの拠点をベースにしながら、広域の活動展開を模索中です。特に、教育分野でなかなか機能していない保護者と学校関係者の連携が実現できるよう、さまざまな壁を乗り越える活動を展開していきたいと考えています。

【助成事業の概要】

〔研修会開催（7月26日・土） 会場/東京都渋谷区・渋谷区文化総合センター 大和田〕

- （1）ファシリテーター……元小学校校長（現在は江戸川区教育委員会勤務。不登校対策など教育行政を担当）
- （2）アドバイザー……指導者（約30年以上にわたり発達障害児の指導にあたる教育機関の指導者）

テーマ〔特別なことはいらない。必要なのは「あたりまえ」の指導である〕

発達障害児の教育現場で「多動・暴言・キレる子どもにどのように接すればいいかわからない」と戸惑う教育関係者が相当数います。「学校現場で困っていることがたくさんある。その解決の手がかりを教えてほしい」との声を受け、具体的な2つの実例（大2・Nさん、社会人・Fさん）に基づきつつ効果的な接し方・教え方（保護者対応も含む）を探る、より実践的・専門的な研修会を開催。午後には研修会を踏まえた話し合いも。昨年に続き3回目。

〔スケジュール〕 5月～7月 企画・資料作成、渉外ならびに告知活動、8～9月 とりまとめ

〔参加人数〕 のべ41名（通常学級・特別支援学級の教師・指導員など。埼玉県、東京都、千葉県、神奈川県に在住の方々）

〔後援〕 文部科学省、厚生労働省、こども家庭庁、内閣府、埼玉県教育委員会、神奈川県教育委員会、千葉県教育委員会、渋谷区教育委員会、港区教育委員会、豊島区教育委員会、北区教育委員会、足立区教育委員会など

セミナー「教育を軸に子どもの成長を考えるフォーラム」第39回として開催

Education in Ourselves [セミナ-2025-7-26]

●草の根事業育成財団「草の根育成助成事業」として実施

【実践・事例から学ぶ特別支援教育の研修会】

特別なことはいない。
必要なのは「あたりまえ」の指導である。

〔NPO 法人から〕 9:45~9:50

事例研究 2 「家庭と子役の信頼関係」 10.33~11.03

● 2歳時に「発達障害」と診断されたものの、学校と信頼関係を築いた親の支えにより大学へ進学したFさん（社会人）の事例

[情報共有タイム] 11:05~11:10

【まとめ】 11:10～11:30

【質疑応答】 会場から（本日の議論の内容や教育全般に関して） 11:30～11:55

▶NPO 法人発行のドリル・成長記録集の販売は9階の会場（渋谷区地域共生サポートセンター〈結・しぶや〉）で行います。

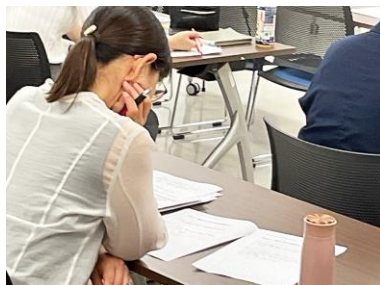
また、セミナー終了後の質問についても9階で対応いたします。

■セミナーの感想をアンケートでぜひ教えてください（記録のため録音と後方からの撮影をいたします）
前回までのレポートはホームページをご覧ください → <https://www.education-in-ourselves.org>

6

【助成事業（研修会）の様子】

セミナー「教育を軸に子どもの成長を考えるフォーラム」第39回として開催



【参加者の声 1（21通のアンケートの中から原文のまま）】

■ 今まで特支だった反面、分からないことだらけand児童の関わり方に悩む1学期でした。でも、大切にしてきたことは、してはいけないことは注意する、やることをいう、を平等に一人ひとりの目をみることをしてきたので、なんだか、このまま2学期もつづけてよいのだとほっと安心しました。子どもの成長を近くで見ることができるこの仕事はすごく大変ですが、やりがいを感じます。このセミナーを通して早く2学期で実践したいことが思いつきました」（小学校通常学級教員）

■ 「スクールカウンセラーをしていて、不登校などの原因はやはり『勉強がわからない』が大部分です。（これまで）小学校の担任をしていましたので、やはり学習にむかう姿勢がてっていけないことが原因と思いました。目を見てきく、目を見てはなす、静かにまつ、の大切さ。おそらく特性の強いお子さんが多いので、これをしっかり身につけることが彼らの強みになっていく」（小・中学校スクールカウンセラー）

【参加者の声 2（21通のアンケートの中から原文のまま）】

■ 「発達障害の有無に関わらずやらなくてはならない指導は一緒であること、してはならないこと、しなくてはならないことはその都度毅然とした態度で指導することが大切だと思いました。お手本になる子どもをクラスで見つけていく、その子どもをみんなの前でほめることも効果的であると分かりました」（小学校）

■ 「・人として必要なことをしっかり教える ・目を見て話す、聞く ・学習のスタート時の姿勢づくり ・算数、国語の学習を通して出来ることを増やしていく、どうせできないんだからとあきらめないことが成長につながる ・学校と家庭で同様にしてはいけないこととしなくてはいけないことをきちんと指導する（子どもが泣き叫んでもというところに感銘しました） ・人に対してしっかりあいさつが出来る子どもを育てる」（小学校特別支援学級）

【助成事業の意義】

- (1) この20年間、発達障害児に対し「個性」「特性」という便利な言葉が安易に使われ、「特別な子ども」として扱われてきた結果、学校現場での効果的な指導に対する工夫や取り組みが不足しており、今後は特別支援教育・療育の再構築が必要
- (2) 発達障害児であっても、将来、穏やかな社会生活を送れるよう、学校現場で必要不可欠な社会性（あいさつやルールなど）をきちんと教える必要があり、学校関係者は先行事例からそのノウハウを学ぶこと
- (3) 個々の教師がバラバラの対応（しかも場当たりの対応）をするのではなく、学校全体で共通理解を図って同一步調でブレない指導していくことが大切
- (4) 挨拶や返事、文字を丁寧に書くといった基本的な学習の効果は生活全般に及ぶことを認識し、幼児期の読み書き計算から指導を徹底すること
- (5) 学校と保護者の信頼関係をしっかり構築すること

【自己評価・今後の課題】

【自己評価】

- ・ 学校関係者向けの研修会としては3回目であり、これまでと同様、参加者間で予想以上に活発な話し合いが行われ、評価も高かったこと
- ・ 参加者数は定員を下回ったものの、来年度以降、同様のプログラムで持続的に開催可能だと実感できたこと
- ・ ハイブリッド型のオンラインセミナー開催への見通しがもてたこと

【今後の課題】

- ・ 参加者間の話し合いを有効活用し、全体としてより活発な議論につなげ、テーマを深く掘り下げる
- ・ より多くの方へ告知し、新たな学校関係者が参加できる方法を探ること
- ・ 参加しやすい適切な開催時期を検討すること

【今後の取り組み】

学校関係者向け研修会への期待・要望が大きいことがわかり、継続の意義を実感しました。より具体的なテーマを掘り下げることにより、特別支援教育・学校教育のレベルアップに貢献でき、結果的に子どもたちの健全な育成に貢献できると確信しました。

2024年、2025年の助成事業として継続的に研修会を開催でき、当NPO法人の事業のひとつの柱になりました。
加えて、その活動の中から有志による研究会活動が誕生し、有意義な研究会活動を開催中です。研究会の会員は15名で、通常学級・特別支援学級の担任や指導員など、埼玉県、東京都、千葉県、山梨県、沖縄県の学校に勤務する方々。

2026年度の活動へとつながりました。大事な「子どもの努力」を支える活動を続けます。

- (1) 3回目の研修会を開催（2027年夏に開催予定/会場は渋谷区地域共生センター〈結・しぶや〉）
- (2) 実践的な「〈教わる力〉を育てる指導研究会」（メンバー15名）の活動を推進
- (3) 対面・オンラインのハイブリッド型セミナー開催を計画（2027年初め）